



HP「石黒の昔の暮らし編集会」

大橋 寿一郎

OHASHI JUICHIRO

1938年 柏崎市高柳町石黒出身

2004年 「ブナ林の里歳時記

—石黒の昔の暮らし—」を自費出版

*2000年～「石黒の昔の暮らし」のホームページを作成
「ブナ林の里石黒通信」を日々更新中

2004年、今から20年ほど前に自費出版された「ブナ林の里歳時記—石黒の昔の暮らし—」を覚えているという方も多いだろう。山間の雪景色に古民家が立ち並ぶ懐かしい風景。ページをめくると石黒地域に今も残る棚田やブナ林などの自然豊かな風景、昔の暮らしや習俗、歴史、方言等、さまざまなことが詳しく紹介されている。郷土史や民族史といった堅苦しいものではなく、懐かしく親しみやすい平易な言葉で綴られた在りのままの記録だ。

大橋さんが石黒の暮らしを本にまとめようと考え始めたのは教員生活の定年が近づいた頃。当時は実家のあった場所に小屋を建てるため、毎週土日は必ず石黒へ通っていた。地元の人たちと共に過ごし、酒を酌み交わす中で石黒の記録を残せないかという願いが集落の人たちの心にあることを知った。いとこの大橋信哉さん、区長の関矢政一さんの協力も仰ぎ、編集から装丁までを全て行い4年がかりで発行。新潟出版文化賞優秀賞や日本自費出版文化賞地域文化部門賞にも輝いた。

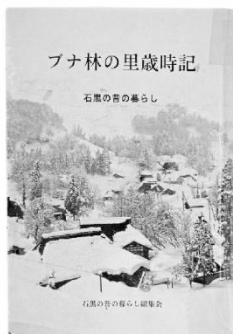
大橋さんの仕事はこれだけでは終わらなかった。その後、すぐに書籍を基にホームページの作成に取り掛かった。本の内容を入れ込むだけではなく、石黒の山や川、畑を何度も歩き、鳥や昆虫などの動物、草花や木、山菜、キノコ等の植物、26000余点の写真を撮影。それを文章の内容とリンクするように整えた。

他にも農作業の様子や民具、神社、年中行事、歴史の流れを記した年表など、関連するありとあらゆるものがホームページに掲載され、まるで1冊の辞書のようなのだ。

大橋さんが苦労したと話すのは古文書。古文書の調査を行う会に参加し作業を手伝いながら数年をかけて古文書の読み方を学んだという。おかげで当時の石黒村の古文書に現代訳を付けて載せることができた。

注目してほしいのは、「石黒の方言」2000語を収録した音声版。大橋政栄さんと妻トシヲさんの録音協力により、文字だけではわからない温かみのある懐かしい方言が、クリックするだけで流れてくる。全国的に消滅していくであろう方言を、音声で残せたところは一番の見どころだと話す大橋さん。書籍もホームページもたくさんの人たちとの出会いに助けられながら楽しんで作ることができたと感謝する。長年発信を続けている「ブナ林の里石黒通信」は、石黒を離れた人たちや海外に住む石黒出身者にとっては懐かしい故郷そのものの。今も大切な心の拠り所となっている。

ホームページに完成はないという大橋さん。メンテナンスを加えながら、時代に合わせた使いやすいものにしていきたいと話している。



お問い合わせ

HP石黒の昔の暮らし編集会

